

旧遷喬尋常小学校講堂コンサート vol.2

～山田耕筰ルネッサンス～

明治34(1901)年、
山田耕筰は、岡山で西洋音楽の教示を得る。
作曲、西洋音楽普及の先駆者のルーツがここにある。

6年後、久世では巨費を投じて
旧遷喬尋常小学校が落成した。

山田耕筰と旧遷喬尋常小学校に共通するもの。
それは、耕筰の野心と夢、
当時の久世町民の教育に対する
「さきがけ」と「さきどり」の精神。



明治40年(1907)、久世に遷喬尋常小学校が落成しました。その擬洋風の建物を初めて見たとき、人々は「近代」というものを実感したに違いありません。わが国の「近代」音楽史において、山田耕筰(1886～1965)は作曲専攻で留学(ベルリン)した最初の人です。幸田延(1870～1946)はヴァイオリン専攻(ヴィーン)、滝廉太郎(1879～1903)はピアノ専攻(ライプツィヒ)でした。

山田耕筰というと、「からたちの花」や「この道」などの歌曲の作曲者として、皆様には馴染みでしょうが、管弦楽曲、オペラ、ピアノ曲、室内楽曲など多くジャンルの作品を書いています。その彼が、東京音楽学校(現、東京藝術大学音楽学部)に入学する前、クラシック音楽の基礎を本格的に教わったのが岡山の地ででした。先生は義兄でした。明治34年(1901)5月、15歳を目前にして耕筰は実姉の恒子がイギリス人の夫と住む岡山の家に取り込まれます。義兄の名はE.ガントレット。オルガニストで、前年の明治33年(1900)に創立したばかりの第六高等学校(現、岡山大学)の英語教師でもありました。

グローバル化に立ち向っている21世紀の今こそ、自分たちの足もとの先人の偉業を見つめなおすときです。このたび真庭市および社会福祉法人旭川荘のご協力を得て、山田耕筰の習作も含めたすべてピアノ曲をCD化することを決定いたしました(2020～2021)。世界初の山田耕筰ピアノ曲全集です。それに呼応して、旧遷喬尋常小学校講堂コンサートでも、彼のピアノ音楽の魅力を多角的に掘り起こすユニークなプログラムを組んでまいります。

東京築地の偉人館から洩れ聞こえてきたピアノの音。その音に聞き惚れた少年時代を思い出し、耕筰は熱く語っています。

「あれだ！ あれが私を作曲家にしたのだ。」(「若き日の狂詩曲」)

瀧井敬子(音楽学者・音楽プロデューサー元東京藝術大学特任教授)

Piano

佐野隆哉

(ピアノ)



都立芸術高校、東京芸術大学を経て同大学院修士課程を修了。日本人男性として初めてパリ国立高等音楽院第三課程からの入学を認められて2008年に修了。

日本音楽コンクール第2位を始め、ホセ・ロカ国際、ロン＝ティボー国際等で入賞。ショパン国際コンクールにてディプロマ受賞。これまでにフランス国立管弦楽団、NHK交響楽団等と共演。現在、国立音楽大学、都立総合芸術高校各非常勤講師。

2013年、ファーストCD「DANZA」(LPDCD-010)をリリース。2016年、歴史的なピアノにより再現された注目盤「クロイツァーの記憶(NAT15431～2、レコード芸術準特選盤)」をリリース。2019年にリリースのソロアルバム第二弾「ドゥーズ・エチュード(NAT17481)」はレコード芸術誌特選盤に選ばれた。

HP: takaya-sano.com

Violin

相川麻里子

(ヴァイオリン)



全日本学生音楽コンクール小学生の部第1位。第4回ヴィニニアフスキー国際コンクールジュニアの部第5位。第62回日本音楽コンクール第3位。東京藝大附属高校を経て東京藝術大学卒業。藝大在学中にパリ国立高等音楽院に首席入学、フランス政府給費留学生として留学。同音楽院を満場一致の1位を得て卒業後帰国。日本でのデビューリサイタル以降はジャンルにとらわれない演奏活動を展開。邦人作曲家の新曲演奏にも力を入れていて、現代音楽の録音にも多数参加。2015年12月にはソロアルバム「メロディ」を発表。また、ピアニストの加古隆と結成したクアルテットでは、エイベックス・クラシックより2枚のアルバムが発売されている。2007年からはlive image ツアーにおいて、イマージュ・オーケストラのコンサートマスターを務めている。